

東アジア・オーストラリア地域

フライウェイパートナーシップ・ユーストピア



何千キロもの距離を超え、
 渡りをする水鳥たちがいます。
 その水鳥たちの生息地が
 世界中で失われつつあります。
 渡りのルート「フライウェイ」上の
 重要な生息地をネットワーク化し
 国境を越えて守っていく。
 それがフライウェイ・パートナーシップです。

Welcome to the Partnership for
 the East Asian-Australasian Flyway

スグロカモメ
Larus saundersi

ナベツル
Grus monacha

カリガネ
Anser erythropus

日本のネットワーク参加地

2007年11月現在

シギ・チドリ類ネットワーク

1. 谷津干潟 (習志野市)
2. 東京港野鳥公園 (東京都)
3. 藤前干潟 (名古屋市)
4. 大阪南港野鳥園 (大阪市)
5. 吉野川河口 (徳島県)
6. 鹿島新籠 (鹿島市)
7. 球磨川河口 (八代市)
8. 漫湖 (那覇市)

ツル類ネットワーク

1. 霧多布湿原 (厚岸郡浜中町)
2. 厚岸湖・別寒辺牛湿原 (厚岸郡厚岸町)
3. 釧路湿原 (釧路市)
4. 八代 (周南市)
5. 出水 (出水市)



ガンカモ類ネットワーク

1. クッチャロ湖 (枝幸郡浜頓別町)
2. 琵琶瀬湾 (厚岸郡浜中町)
3. 厚岸湖・別寒辺牛湿原 (厚岸郡厚岸町)
4. 釧路湿原 (釧路市)
5. 宮島沼 (美唄市)
6. ウトナイ湖 (苫小牧市)
7. 蕪栗沼 (大崎市)
8. 白石川 (柴田郡大原町)
9. 小友沼 (能代市)
10. 八郎潟干拓地 (南秋田郡大湯村)
11. 瓢湖水きん公園 (阿賀野市)
12. 福島潟 (新潟市)
13. 佐潟 (新潟市)
14. 片野鴨池 (加賀市)
15. 琵琶湖 (滋賀県、高島市、湖北町、高月町)
16. 米子水鳥公園 (米子市)

EAAFパートナーシップの 保全対象種群一覧

分類群	分類群
アビ科 Gaviidae	クイナ科 Raliidae
カイツブリ科 Podicipedidae	ヒレアシ科 Heliornithidae
ウ科 Phalacrocoracidae	レンカク科 Jacanidae
ミズナギドリ科 Procellariidae	ミヤコドリ科 Haematopodidae
ウミツバメ科 Oceanitidae	セイタカシギ科 Recurvirostridae
ペリカン科 Pelecanidae	ツバメチドリ科 Glareolidae
サギ科 Ardeidae	チドリ科 Charadriidae
コウノトリ科 Ciconiidae	シギ科 Scolopacidae
トキ科 Threskiornithidae	カモメ科 Laridae
カモ科 Anatidae	トウゾクカモメ科 Stercorariidae
ツル科 Gruidae	ウミスズメ科 Alcidae



渡り鳥は、生息地ネットワークを必要としています。



連絡先

■シギ・チドリ類ネットワーク
 国内コーディネーター：前川聡
 WWF ジャパン自然保護室
 TEL : 03-3769-1713
 FAX : 03-3769-1717
 〒105-0014 東京都港区芝 3-1-14
 日本生命赤羽橋ビル 6F

■ツル類ネットワーク
 国内コーディネーター：松本文雄
 ツル・コウノトリネットワーク事務局
 TEL : 0154-66-4011
 FAX : 0154-66-4022
 〒085-0200 北海道阿寒郡阿寒町
 23線40番 阿寒国際ツルセンター

■環境省自然環境局野生生物課
 TEL : 03-3581-3351 FAX : 03-3581-7090
 〒100-8975 東京都千代田区霞ヶ関 1-2-2
 中央合同庁舎 5号館 26F

■ガンカモ類ネットワーク
 国内コーディネーター：神谷要
 (財) 中海水鳥国際交流基金財団
 TEL : 0859-24-6139
 FAX : 0859-24-6140
 〒683-0855 鳥取県米子市
 彦名新田 665 米子水鳥公園

東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップが発足しました。



EAAFパートナーシップ発足式 2006年11月、インドネシア・ボゴール

渡り性水鳥を保全するためには

多くの鳥たちは、子育てをする時期には食物が豊富な場所へ、寒い時期には暖かい場所へ、さまざまな理由から渡りをします。その中で国境を越えて移動する鳥たちを、国際的な枠組み等では「渡り鳥」と定義しています。そして渡り

をする水鳥の事を、ここでは「渡り性水鳥」と呼ぶことにします。渡り性水鳥は、渡りのルート「フライウェイ」上に存在する干潟や湿原、水田といった湿地を、採食や休息などのため利用します。このため、渡り性水鳥が、例えば北の繁殖地から南の越冬地まで渡る際には、フライウェイ上に湿地が点々と連なって存在している必要があります。たとえ一部でもフライウェイ上の湿地が失われると、そこを利用していた渡り性水鳥は渡りを成功させることができなくなってしまいます。したがって、渡り性水鳥を保全するためには、一ヶ国だけではなく、フライウェイ上の国々で連携して、その生息地である湿地の保全に取り組むことが重要なのです。

これまでの取組

日本は、アメリカ、オーストラリア、ロシア、中国との間で結んでいる二国間条約・協定に基づき渡り鳥等の保護を行ってきたほか、多国間の枠組みである「アジ

ア・太平洋地域渡り性水鳥保全

戦略(1996-2006)」に基づ

き、渡り性水鳥の重要生息地

の国際的なネットワーク構築

等に取り組んできました。

これらの取組をさらに発展させる

ため、2006年11月に東アジア・

オーストラリア地域フライウェイ・パ

ートナーシップが発足しました。



東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ

(渡り性水鳥保全連携協力事業、略称:EAAFパートナーシップ)とは

EAAFパートナーシップとは、日本を含む東アジア・オーストラリア地域フライウェイ(中央図、線で囲まれた地域)において、国の政府機関、国際機関、国際NGO等、様々な主体の連携・協力を促進し、渡り性水鳥とその重要な生息地を保全するための枠組みです。渡り性水鳥の重要生息地の国際的なネットワークの構築や、普及啓発、調査・保全活動等を促進し、湿地への認識を高めることで、生物多様性の保全と地域住民の利益につなげることを目的としています。

EAAF パートナーシップの ネットワークに 参加するには

渡り性水鳥の重要な生息地を保全するため、EAAFパートナーシップは「東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワーク」を運営しています。日本には、アジア・太平洋地域渡り性水鳥保全戦略の下に構築されたシギ・チドリ類、ツル類、ガンカモ類の3種群の重要生息地ネットワーク(略称:シギ・チドリ類ネットワーク、ツル類ネットワーク、ガンカモ類ネットワーク)があり、EAAFパートナーシップにも引き継がれていますが、EAAFパートナーシップではより多くの分類群の渡り性水鳥を保全対象としています(次ページのリストを参照)。

EAAFパートナーシップでは、今後も重要生息地ネットワークの拡大と活動を促進していきます。ネットワーク参加地の参加基準(注1)を満たす湿地があり、ネットワークへの参加にご興味のある自治体は、環境省(注2)にご相談下さい。



クロツラヘラサギ
Platalea minor



ホウロクシギ
Numenius madagascariensis

注1: 原則として、ラムサール条約湿地を選定する際の水鳥の基準(基準2、5、6)に準じています。詳しくは http://www.sizenken.biodic.go.jp/flyway/ramsar/ramsar_printout.html をご覧ください。

注2: 窓口は環境省自然環境局野生生物課です。詳しくは後ろのページの連絡先一覧をご覧ください。